

日本語とトルコ語における 「結婚」に関する諺の対照研究

Mariko KIZILAY

Abstract

The characteristic points in Turkish and Japanese proverbs about marriage are as follows. First, in Turkish proverbs, there are many concrete expressions that give men lessons about a suitable kind of woman to marry. Secondly, most Japanese proverbs are expressed from the man's point of view, whereas, in Turkish, proverbs from the viewpoint of women are also found. Thirdly, in Turkish proverbs, there are many proverbs about realistic topics like the relationship between a wife and her mother-in-law, and brides are mostly described as a strong presence. Fourthly, when the images for women in Japanese and Turkish proverbs are compared, we find women who are subordinate, dependent on men or looked down on as weak figures from the male viewpoint in Japanese proverbs, but in Turkish, it is characteristic that men are rather frightened of women or dependent on women, and the figure of a strong woman like the central pillar at home is drawn. Sometimes a woman in Islamic society is apt to be given an image in which she is under the control of the man and has restricted freedom, but at least in the world of Turkish proverbs, the woman is not a weak presence at all.

1. はじめに

諺は庶民の古からの知恵、教訓を凝縮したものと見える。その中には国、ことばの違いを超えた普遍的な共通性が多く見いだされようし、各文化間の相違も発見されよう。本稿は日本語とトルコ語の諺をもとにした、比較文化論のひとつの試みである。

トルコ語で諺のことを *Atasözü* という。直訳すれば「祖先のことば」である。この *Atasözü* を主題とした諺に、*Atalar sözü tutan yüce dağlar aşar.* (祖先の忠告に従う者は高山を乗り越える)、*Ataların bir sözü bin öğüde geçer.* (一つの諺は千の忠告に値する)、*Ulu sözü dinlemeyen ulayakalır.* (諺に耳を傾けない者は助けを求めてうめき続ける) というものがある。これらは、諺が言わば先人が残した人生訓の如きものであり、その教えは耳を傾けるに値するものであることを教示していよう。

確かに、諺の中には時代の推移により、現在の実情にもはやそぐわないものもある。日本語

の「女三界に家なし」、トルコ語の Eri olmayanın yeri olmaz. (夫のいない女性に居場所なし)、Oğlan doğuran öğünsün, kız doğuran dövünsün. (男児を産んだ女性は誇りに思い、女兒を産んだ女性は悔しがる)、On beş yaşındaki kız ya erde gerek ya yerde. (15 で女は結婚しているか、墓の中)などがその例として挙げられる。しかしながら、今日の世情、真実を映すものも数多く存在しており、比較文化研究の貴重な宝庫であると考えられる。

2. トルコ語の諺の主題別比率

トルコ語の諺にはどのような主題が多く見られるか、5000 例以上の諺が主題別 (174 主題) に取り上げられている Yurtbaşı(1993)の分類¹を元に計算した。主題の第 1 位は「結婚」に関するもの 234 例、第 2 位「話すこと・おしゃべり」145 例、第 3 位「豊かさ・豊富」133 例、第 4 位「類似」121 例、第 5 位「本当らしいこと・確率」111 例、以下、「能力」84 例、「信頼」84 例、「勤勉」80 例、「価値」77 例、「アラー」76 例と続く。

本稿では主題の第 1 位となっている「結婚」、及び関連する「女性」を主題とする諺について、日本語トルコ語間で対照し、考察していく。

*本稿中「 」内は日本語の諺、()内は直前のトルコ語の諺の直訳、また〔 〕内及び → 以下は、その含意するところを表すものとする。

3. 両言語で類似する諺

「女房の悪いは六十年の不作」「悪妻は百年の不作」に相当するトルコ語の諺に、Avradı bet olanın sakalı erken ağarır. (口やかましい妻を持つ夫の髭はすぐ灰色になる) というものがある。いずれもその含意するところは、〔妻選びは慎重にせよ〕というものであろう。

まず、結婚相手の出自、家柄に関して、「婿は座敷から貰え、嫁は庭から貰え」「嫁は下から婿は上から」という諺がある。これに類似するトルコ語の諺に、At alırsan başlıdan, kız alırsan çarlıdan. (馬を買うなら頭の大きな馬を買え、結婚するなら貧乏人の娘と結婚せよ)、Senden alçaktan kız al, senden uluya kız verme. (自分よりも劣った者から嫁をもらえ、自分よりも優れた者のところへ嫁をやるな) といったものがある。トルコ語では婿についても下からもらうことを勧める。その一方で、これと相反する諺も存在する。曰く At alırsan taydan, kız alırsan soydan al. (→血筋のいい娘と結婚せよ)、Asili alması zor, saklaması kolaydır. (高貴な娘と結婚するのは難しいが、結婚生活を続けることは容易い。→育ちの悪い娘と結婚するのは容易いが、結婚生活を維持することは難しい)、また〔育ちの良い、悪い、双方に難あり〕といろいろなバリエーションがある。結局、At ile avrat yiğidin bahtıdır. (馬と女は男の運→運が良ければいい女、馬が得られる) とあるように、〔結婚は運次第〕ということになるのであろうか。

「女房と豊は新しいほうが良い²」「女房の持ちたてとわらじのはきたては足が軽い」に類似するものとして、Avradın küçüğün al, işsiz çıktı bahtına, dişsiz çıktı bahtına. (若い妻を得よ、彼女に技術(仕事)があるかないか、歯があるかないか〔強いかわい弱いか〕はあなたの運次第)、Ergene

var ergene, tasasız gir yorgana. (処女と結婚しろ、そして何の心配もなくベッドに行け) などがある。一見、同様の諺に見えるのだが、トルコ語の諺の焦点が妻の処女性とその若さにあるのに対し、日本語では、[女房は初めのうちはいいが、だんだん悪くなる] を含意するところに差異が見られる。

「妻選び」の判断のより所を示すものとして、「嫁を貰えば親を貰え→嫁を貰うときは、その親の人柄を見よ」という諺がある。同様にトルコ語にも、Anasına bak kızını al, kenarına bak bezini al. (布を買う前に布端をチェックするように、結婚する前に娘の母親を見よ)、Gülüne bak, gongcasını al. (薔薇を見てから芽を摘め) という諺がある。その他、トルコ語には、Elin övdüğünü el alır, ana babanın övdüğü evde kalır. (他人に賞賛される娘は簡単に夫を見つけられる、親から賞賛される娘は家に留まる)、Kızı alan göz ile bakmasın, kulak ile işitsin. (結婚相手を決めるときは目だけでなく、人から話も聞け) といった諺もある。

さらにトルコ語には、具体的に、相応しい (或いは相応しくない) 結婚相手とはいかなる女性であるかを示す諺が数々見られる。たとえば、Çirkin karı evin toplar, güzel karı düğün gezer. (→美人の妻よりも醜い妻)、Avradın yediği giydiği gibi olsa vay kişinin haline. (→浪費する女とは結婚するな)、Avrat var arpa ununu aş yapar, avrat var buğday unundan keş yapar. (→才能のある女と結婚せよ)、Avrat var ev yapar, avrat var ev yıkar. (→家を壊す女とは結婚するな) などが挙げられる。

以上のように、トルコ語には男性に対する具体的な忠告形式の諺が実に多い。

男女双方に対する「配偶者選び」に関する諺もある。まず、[ふさわしい相手と結婚せよ] を含意する、「釣り合わぬは不縁の元」「破鍋ちかばに綴蓋とじ」という諺がある。トルコ語には同趣旨の諺が表現を変えて数多くある。たとえば、Davul dengi dengine çalar. (太鼓は見合ったばちにより音が出る)、Tartılırsan denginle tartıl. (太っているなら、太っている相手が釣り合う)、Eşini, işini, aşını bil. (自分の配偶者、自分に合った仕事、食べ物を知れ)、Sakalına göre tarağı vur, ölünceye kadar geçineceğini ara dur. (髭に合った櫛を探せ、死ぬまで幸せでいられる相手を探せ) などが挙げられる。また、日本語に「去り跡へ行くとも死に跡へ行くな」というものがあるが、トルコ語では女性への忠告として、Boşanıp kocana varma, sevişip dostuna varma. (離婚した夫と再婚するな、恋人であった男とよりを戻すな)、また男性への忠告として、Alma avradın dulunu, yanında getirir kulunu. (未亡人とは結婚するな、さもなければ彼女は連れ子を連れてくる) といった諺がある。

結婚生活に関する諺に、「雌鳥歌えば家滅ぶ」というものがあるが、トルコ語にも Kadınım hükmettiği evde mutluluk olmaz. (女性に支配される家に幸せはない)、Kırk yılda bir kadın sözü dinlemelidir. (40年に1度は女性の言葉に耳を傾ける) という諺がある。また、「内助の功」にあたる諺として、Erkeği rezil eden de, vezir eden de karısı. (妻は夫を上げることもできれば、下げる[汚す]こともできる)、Kocasını cennete de cehenneme de sokan karısıdır. (妻は夫を天国にも地獄にも置ける)、Erkek aslan dişisinden kuvvet alır. (雄ライオンは強さを雌ライオンから得る→妻が夫を支えれば夫は強くなる) といったものがある。

4. 結婚に纏わる人間関係

4.1. 嫁姑の確執

諺は男性の視点から述べられたものが多いが、トルコ語の諺には、女性の視点から述べられたものも多く存在する。その中で、日本の嫁姑問題を想起する諺が数多くある。ほとんどは嫁の視点から述べられ、姑が悉く扱き下ろされているのが特徴的である。

まず、Gelinin dini yok, kaynananın imanı. (嫁に宗教なく、姑に信仰なし)、Gelin bildiğini işler, kaynana dudağını dişler. (嫁は自分の思うとおりにやり、姑は唇を噛む) は、双方の姿を中立的にとらえたものといえよう。

Gelin çiçek, her dediği gerçek ; kaynana yılan, her dediği yalan. (嫁は花、彼女の言うことは真実 ; 姑は蛇、彼女の言うことは嘘)、Kaynana öcü, oğlu cici. (姑は鬼、息子はかわいい)、Kaynana pamuk ipliği olup raftan düşse gelinin başını yarar. (もし姑が綿糸だとして、棚から落ちたなら、嫁の頭を傷つける。→嫁の目から見れば、姑がいかなることをしようとも問題)、Kaynananın iyisi, kırk arşından kuyusu. (最高の姑は40ヤード下の井戸の中)、Kaynatam devletli olsun³, kaynanam sahavetli. (舅が繁栄し、姑が寛大にならんことを!) などは嫁の立場からの諺である。その他、嫁に直接、思うところを言えない姑の胸の内を、Kızım sana söylüyorum, gelinim sen anla. (娘よお前に言う、嫁よお前も理解しろ) といった表現に見出される。また、希望的観測からであろうか、用例中ただ一つ、Ekmek ekmeğin mayası, gelin kaynananın dayası. (パンとイーストのように、嫁が姑を支える) という諺があるのも付記しておきたい。

4.2. 妻(嫁)の位置づけ

日本語の諺に「女とまな板は無ければ叶わぬ」というものがある。奥津(2000)はこれに対して、「家の付属物としての嫁の必要性を述べたもの」であり「人格は無視」されていると評する。一方、トルコ語の諺では Kadınsız ev olmaz. (妻のいない家を家と呼ぶことはできない)、Kadınsız hane kuşşuz kafese benzer. (妻のいない家は鳥のいない鳥かごのようなもの)、一方、夫がいない女性については, Ersiz avrat, yularsız at. (夫のいない女は手綱のない馬)、Kocasız karı, beysiz arı. (夫のいない女は女王蜂のいないミツバチ)、Erkeksiz ev, yelkensiz gemiye benzer. (男のいない家は帆のない舟のよう) などという。

トルコ語では、女(妻)を物事の要、主要物に喩えているところ、日本語の諺における女性の扱いは少々異なる⁴。しかし女(妻)を「馬、ミツバチ」に、それに対する夫を「手綱、女王蜂」に喩えている点から、要の妻を抑制するのは夫、といった含意も感じられる。但し、トルコ語には Horozsuz tavuk çobansız sürüye benzer. (雌鳥のいない雄鳥は、羊飼いのいない羊の群れの如きもの) と、夫を羊に、妻を羊飼いに喩えているものもある。つまり、夫を抑制するのは妻という逆バージョンも存在する。

次に語源から考えてみたい。日本語では、女偏に家と書く「嫁」という漢字に顕著に示されるように、「女が家(婚家)に入る」ことが「嫁ぐ」、すなわち女性にとっての「結婚」を意味

してきた。一方、英語の *bride* は、語源的には「料理をする人」から派生してきたと言われ⁵、日本語の「嫁」のように「家」との関係を含意するものではない。

日本語の「嫁」、あるいは英語の *bride* に相当するトルコ語は *gelin* である。*gelin* は動詞 *gel* (来る) に接尾辞 *-in* が付いたものである。接尾辞 *-in* は動詞語幹から、その動作の結果を示す名詞を作る働きがある。とすれば、トルコ語の *gelin* も「(他家より婚家へ) 来る」という意味を含有する語と言える。さらにトルコ語では結婚することを *evlen* という。これは「家」を意味する *ev* に、接尾辞 *-len* が付いたものである。接尾辞 *-len* は、名詞語幹からその作用や性質を受ける自動詞を作る働きがある。つまり、トルコ語の *evlen* には「家」との繋がりが語源的に付されており、西洋の個人主義に則った結婚とは相異なる、むしろ日本の古来からの「結婚」概念に近いものが感じられる。この背景には、中央アジア時代のトルコ民族が牧畜生活に基礎を置く大家族制であったこと、トルコ社会では伝統的に「家」、あるいは「一族」というものが非常に重要視されてきたことがあると考えられる⁶。

4.3. 親族名称から見た人間関係

婿養子に関するものとして、日本語には「小糠三合持ったら婿に行くな」というものがある。トルコ語では、婿養子を迎え入れる妻の実家の視点から、*İçgüveysi, iç ağrısı*。(婿養子と一緒に暮らすことは苦痛) という諺はあるが、入り婿の視点からの諺は見あたらない。

また日本語には、嫁の視点から述べられた「小姑一人は鬼千匹に当たる」という諺がある。同様に、トルコ語にも *Varın veren utanmaz, baldızı olan yad olmaz*。(手にある物を与える者は恥じない、義理の姉妹のいる夫は平安を見出せない) という諺がある。日本語の「小姑」に相当するトルコ語には二つあり、夫の姉妹が *görümce*、妻の姉妹が *baldız* である。トルコ語のその他の親族名称をみると、夫・妻の兄弟については、*kaynıbirader* の一語のみ、舅は夫側、妻側どちらも *kaynata*、姑は夫側、妻側どちらも *kaynana* であり、夫、妻の姉妹についてのみ、名称による区別があるのは興味深い。

日本語で「小姑」というとトルコ語の *görümce* の存在のほうを思い浮かべるが、前述したトルコ語の諺では妻の姉妹 *baldız* のほうが取り上げられている。但し、語彙面から見ると、トルコ語の姑 *kaynana* と夫の姉妹 *görümce* については、それぞれ *kaynanalık* (姑根性)、*görümcelik* という派生語が存在し、これを動詞として使えば *kaynanalık etmek* で「嫁や婿にいじわるをする、嫁いびりをする」、*görümcelik yapmak/etmek* で「花嫁を困らせる」といった意味となる。嫁あるいは婿を困らせる存在は、日本と同様、姑、或いは小姑であることが窺える。

5. 異質な、或いは両言語で相違する諺

5.1. 結婚する者は神の祝福を受ける

奥津(2000)に、「結婚が望ましいことであり、当然すべきものである」という意味の諺は日英ともにきわめて少ないが、聖書の中には、結婚を尊重すべきもの、必要なものとする言葉が見ら

れる」とある。トルコ語ではどうであろうか。

Allah evlenenle ev yapana yardım eder. (アラーは結婚し家を建てる者を助ける)、Genci gence ver de rızıklarını Allah versin. (若い男と若い娘を結婚させよ、アラーが与え給う)などはコーランに典拠するものであるが、その他にも Avradın düzdüğü evi tanrı yıkmaz, avradın bozduğu evi tanrı yapmaz. (神は妻が整えた家を壊すことはない、女によって壊された家を神は元に戻すことはない)、Atta, avratta uğur vardır. (馬を所有すること、妻を持つことには幸運がある)、Varsa eşin rahattır başın, yoksa eşin zordur işin. (配偶者があれば問題なし、なければ問題を抱える)、Nikahta keramet vardır. (結婚は奇跡を起こす。→合わないことを心配するな。結婚すればすべてはうまく行く)など、トルコ語の諺には結婚を推奨するものが多い。

5.2. 男も早くに結婚したほうがいい

トルコ語には、女の早婚を勧める諺が数多く存在する。たとえば、At beslenirken, kız istenirken. (馬は状態が最高のときが売り時、娘は求婚者がいる間に嫁にやるべき)、Kızını fırsat bulunca, oğlunu canın isteyince evlendir. (娘は機会があれば、むすこは好きなきに結婚させよ)、Kızın on beşe geldikte kendin koca ara. (娘が15歳になったら夫を探せ⁷⁾)などが挙げられる。

それと同時に、トルコ語の諺では「男も早くに結婚したほうがいい」と説く。たとえば、Sabahtan karnın doyuran, küçükten evlenen aldanmamış. (朝に十分な朝食を食べ、若い娘〔処女〕と結婚した男性は騙されない)、Tünle yürüyen gündüz sevinir, küçükken evlenen yaşlanınca sevinir. (夜に旅する者は日中楽しむ、若くして結婚する者は年老いて楽しむ)などの諺がある。よって、独身男に対する評価は厳しい。Bekarın parasını it yer, yakasını bit. (独身男の金は犬が食べ、襟はノミが食べる)、Bekarlık maskaralık. (独身生活は恥辱、不名誉)といった具合である。その一方で、「自由謳歌できるのは独身時代」といった諺も存在する。たとえば、Bekarlık gibi sultanlık olmaz. (独身生活は王者の生活)、Erkeğin rızkı karının ruhsatına bağlı. (夫の生計は妻の認可に繋がっている)といった諺がある。

5.3. 女性にとっては父親・息子よりも夫

Baba ekmeği zindan ekmeği, koca (er) ekmeği meydan ekmeği. (父親のパンは刑務所のパン、夫のパンは広場のパン)、冒頭の baba は evlat (子) 又は oğul (息子) に置き換えられることもある。Baba vergisi görümlük, koca vergisi doyumluk. (父親が娘のために与えるものは他人に見せるため、夫が彼女に与えるものは長年にわたり続く。→妻を長きにわたり支えるのは夫)、Bir koca yedi oğula bedeldir. (一人の夫は七人の息子に値する)、Kadının şamdanı altın olsa, mumu dikecek erkektir. (妻の蠟燭立て〔持参金〕が金でできていても、それに蠟燭を供給するのは夫)、Kişi kızı olma, kişi avratı ol. (偉大な人物の娘であるよりも妻であれ)などは、女性にとって如何に夫の存在が重要であるか、また結婚後の生活を重要視することを示すものであろう。

関連して、トルコ語の諺には「二世帯同居の難しさ」を説くものも見られる。Dağ dağ üstüne

olur, ev ev üstüne olmaz. (山と山は重なり合うことができるが、二つの家族が一つ屋根の下で暮らすことはできない)、冒頭の dağ dağ (山と山) は er er (手と手)、taş taş (石と石) などに置き換えられることもある。息子・娘夫婦との同居についても, İçgüveysi, iç ağrısı. (婿養子と一緒に暮らすことは苦痛)、Koca ekmeği meydan ekmeği, evlat/oğul ekmeği zindan ekmeği. (夫のパンは広場のパン、息子のパンは刑務所のパン) などが示すとおり、その難しさが表出されている。

5.4. 男性の女性観

結婚に関連して「女性」に関する諺を検討することにする。まず、日本語・トルコ語ともに現れる男性の女性観は、日本語なら「女は魔物」「女は地獄の使い」、トルコ語では şeytan の語に代表されるものである。şeytan は「サタン、悪魔」を意味するが、形容詞としては「悪賢い、ずる賢い」などの意味を有する。この女性観は日本語・トルコ語に限らず、他の言語の諺の中にも見出しうる⁸。トルコ語ではこの女性観が女性に関する諺の大部を占めている。そしてこの女性観から導き出されるのは、〔女は信用するな〕というものである。日本語では「七人の子をなすとも女に心許すな」「女は死んでも信ずな」「女に大事は明かさねぬ」、トルコ語では At ile avrada inanılmaz. (妻と馬は信用するな)、Kadın deniz gibidir. (女は海のように→女はいつも心変わりする)、Karına dişini saydırma. (妻にあなたの歯の数を数えさせるな→妻が一度あなたの所有物のすべてを知れば、それを浪費するのは間違いない)、Avrat gibi düşman olmaz, güler bildirmez ; köpek gibi dost olmaz, ulur bildirmez. (女のような敵はいない、笑顔の裏に憎悪の気持ちを隠す；犬のような親友はいない、吠えるがあなたに何も伝えられない)、Arı sırrı karı sırrı. (蜂の秘密、女の秘密→女は秘密を守れない) など、表現を変えて様々な諺がある。しかしながら、女がたとえ şeytan の如き存在であろうとも、Horozsuz tavuk çobansız sürüye benzer. (雌鳥のいない雄鳥は、羊飼いのいない羊の群れの如きもの)、Horozsuz tavuk yaşamaz. (雌鳥のいない雄鳥は生きられない) とトルコ語の諺はいう。

次に相違点について考察する。日本語には〔女は男次第、男性に追従すべき存在〕といった女性観を示す諺が多く存在する。「女は氏無くて玉の輿に乗る」「女は亭主次第」「女は一生の苦楽を他人に依る」「夫唱婦随」「女は三従」「女に五障三従あり」「夫に付くが女の習い」などが挙げられよう。しかし、この女性観はトルコ語の諺には見られない。利用した資料中では唯一〔女の幸せは夫次第〕を含意する、Kadını yeşil yaprak eden de kocası, kara toprak eden de kocası. (妻を緑の葉にするのも、黒い土にするのも夫) というものが見出せるが、これは日本語の諺に見られる〔結婚による女性の地位向上〕や、「玉の輿」などの語に示される女性観とは異なるものであろう。むしろトルコ語の諺では、〔男性は女性次第〕を含意するものが多く見られるのが特徴的である。前述した Erkeği rezil eden de, vezir eden de karısı. (妻は夫を上げることができれば、下げることができる)、Kocasını cennete de cehenneme de sokan karısıdır. (妻は夫を天国にも地獄にも置ける) などが例として挙げられよう。

その他、「女の知恵は鼻の先」「女の賢いのと東の空明かりとは当てにならぬ」「女賢うして牛

売り損なう」といった、〔女の知性は劣る〕を含意する諺も日本語には多く存在する。同様の趣旨の諺はトルコ語にも数少ないが見出しうる。たとえば、Kadın kısmının saçını uzun olur akli kısa. (女は長い髪と少しの知性を持つ)、Karının bir akli, erkeğin dokuz akli vardır. (女に知性はただ一つ、男には九つ) などがある。

6. 結婚生活

6.1. 理想とされる夫・妻

トルコ語の諺で理想とされる女性像は大きく三つある。第一に子育て上手なこと、たとえば、Kadın eşik dibinde değil beşik dibinde belli olur. (女性が良妻かどうかは、家の前で座っている間は判断できないが、赤ん坊をいかに育てているかを見れば分かる)、Kızı duvak, gelini beşik arkasında görmeli. (結婚相手を見るときはベールの下、花嫁は揺りかごの後ろを見よ)、Doğuran avrat azraili yenmiş. (子どもを産む女は死の天使を打ち負かすことができる) などの諺に見られる。第二に謙虚、従順なこと、たとえば、Kadın kadıncık gerek. (女性は小さな女性であれ→でしゃばるな、無力であれ)、Buyurmadan tutan evlat, çağırmadan kalkan avrat, orada, olur devlet. (父母が一々言わずとも自分でする子どもと、言わずとも自分で何でもやる妻がいるところには繁栄がある) といった諺がある。第三に処女であること、Kızın en büyük serveti bikridir (bekaretidir). (娘の最高の持ち物は処女性)、Tarlayı düz, kadını kız al. (土地は平地を買え、妻は処女を得よ)、Ergene var ergene, tasasız gir yorgana (処女と結婚し、何の心配もなく床に就け) といった諺がある。その他、〔家の片付けがきちんとできること→勤勉であること〕を含意する、Erkek eşeğinden/döşeğinden, kadın eşeğinden belli olur. (男性はロバから⁹ (マットレスから)、女性は家の玄関からその人となり明らかとなる) といった諺もある。

一方、夫については、誠実さ、責任感、勇敢さなどを望む諺が見られる。Getir varlığı, göstereyim karılığı. (お金や食べ物などを持ってきてくれたら、主婦の偉大さを見せてあげる)、Yigdim yigit olsun da yerim çalı dibi olsun. (勇敢で良き夫であれば、たとえ家が茂みの下でも構わない)、Avradı eri saklar, peyniri deri (saklar). (チーズを〔ヤギ〕の皮の中で保護するように、妻を守るのは夫) といった諺がある。また〔夫は妻を悲しませてはいけない〕を含意する、Eşini ağlatan gülmemiş. (配偶者を泣かせる者は笑うことはできない) という諺もある。

理想の夫婦像としては、Erkek getirmeyi, kadın yetirmeyi bilmeli. (夫はいかに食料を手に入れてくるか、妻はそれでいかに満足させるかを知っていなければならない)、Erkek fedakar kadın vefakar gerek. (夫は献身的、妻は忠実でなければならない) などの諺が示す通りである。

6.2. 家・家庭の姿

日本語には「女房は家の大黒柱」「女房は半身上」「雌鳥勧めて雄鳥時を作る」といった諺がある。一方トルコ語には、Yuvayı dişi kuş yapar. (雌鳥が巣を作る)、Dişi kuştur yuvayı yapan, dişi kuştur yuvayı bozan. (巣を作るのも壊すのも雌鳥)、Evi erkek yapar, yuvayı kadın. (家を作るのは

男、家庭を作るのは女)、Evi yapan da anne, yıkan da anne. (家庭を作るのも壊すのも母親)、Her kadın evinin hem hanımı hem halayğıdır. (すべての女性は家では女主人であると同時に女中である)、Erkek kuş gezer havayı, dişi kuş yapar yuvayı. (雄鳥は無責任に飛び回り、雌鳥は巣を作る)、Erkek sel, kadın göl. (夫は洪水、妻は湖→夫は浪費し、妻は財布の紐を握る) などがある。日本語・トルコ語とも、[家の要は妻にあり] という点では共通している。

ところで、トルコ語には「女房の尻に敷かれている (夫)、かかあ天下の (夫)」を意味する kılıbık という語がある。英語なら henpecked husband, gray mare, grey mare, petticoat government などと 2 語で表現せざるを得ないところ、トルコ語にはそのものずばりを表す 1 語が存在し、さらに kılıbıklaşmak (kılıbık になる)、kılıbıklık (女房の尻に敷かれていること) という派生語も存在する。

一方「亭主関白」は、英語では overbearing husband, wearing the pants in one's family などと表現せざるを得ないが、トルコ語では kazak という 1 語が存在する。kazak には 3 つの同音異義語が存在し、そのひとつ「コサック騎兵」を第一義とする kazak から、比喩的に「亭主関白」の意が使われるようになった。よって「亭主関白」を意味する kazak は、トルコ人男性の性質を本来的に示すものではなかったといえる¹⁰。

また、夫婦それぞれの親戚・家族への妻の対応を示す次の諺からも、トルコ社会の女性像が垣間見られる。Hanımın hısmı gelince oklavalar tıklar tıklar, beyin hısmı gelince dişler takır takır. (妻の親戚が来るとたくさんの食べ物を用意される、夫の親戚が来ると妻が〔夫に〕がみがみ小言を言う)、Karı hısmı alay bağlar, erkek hısmı sinek avlar. (妻の親戚は大人数でどやどややって来る、夫の親戚は怖々やって来る)。

7. おわりに

日本語とトルコ語における「結婚」に関する諺の特徴的な点は、以下 4 点にまとめられる。第一に、トルコ語には結婚相手としてどのような女性がふさわしいか、男性に対する具体的な忠告形式の諺が多く存在すること、第二に、日本語の諺では男性の視点から述べられたものがほとんどであるが、トルコ語には女性の視点からの諺も多く存在すること、第三に、トルコ語の諺には嫁姑問題といった現実的なトピックに関するものも多くあること、また、それらの諺の中では「嫁」が強い存在として描かれていることが多いこと、第四に、トルコ語と日本語の諺の中での女性像を比較すると、日本語の諺の中では男に従属し、依存する弱い女の姿、また、男性の視点から見下された女性の姿が目立つが、トルコ語では、男性がむしろ女性に対して恐れをなし、家庭の大黒柱の如き、強い女性の姿が描き出されていることである。

イスラム社会の女性は、時に黒いベールで髪をすっぽり覆い、男性の支配下に置かれ、自由を拘束されているが如きイメージをもたれがちであるが、少なくともトルコ語の諺の世界では、女性は決して男性の付属物が如き、弱き存在ではない。Gelin altın taht (kürsü), getirmiş, çıkmış kendisi üstüne oturmuş. (花嫁は持参金として金の玉座を持ってきて、自分がそこに座る)、Gelin

halıyı getirir, kendi serer kendi oturur. (花嫁は持参金として絨毯を持ってきて床に広げ、その上に自分が座る)、Gelin odası ziyetli olur. (花嫁の部屋は宝石で一杯)などの諺は、トルコ社会の嫁の悠然とした様子を示すものとして興味深い。また結婚後も、家庭の中心としてどっしりと構える女性の姿が、Erkek kuş gezer havayı, dişi kuş yapar yuvayı. (雄鳥は無責任に飛び回り、雌鳥は巣を作る)、Kadın erkeğin eşidir, evinin güneşidir. (女性は夫の連れ合い、家の太陽)のように多くの諺の中に見出せる。

トルコ語の諺では押韻が非常に効果的に用いられている。たとえば、女性を表す語は幾つかあるが、諺でもっとよく使われるのは avrat である。そしてその対句の中に登場するのが at (馬)である。馬がトルコ民族にとって、非常に身近な存在であったことがその要因であろうが¹¹、それに加え、avrat との脚韻効果もねらったものでもあろう。尚、諺の形式については、稿を改めて考察することにする。

¹ 但し、2つ以上の主題にまたがって採用されているものもある。

² 但し、「女房と鍋釜は古い程がよい」「女房と味噌は古い方がよい」という逆バージョンもある。

³ devletは「国、国家」を第一義とする語であるが、「繁栄、幸運」という派生的意味も有す。ここでは、sahavetliと脚韻を踏ませるためにこの語が選択されたと考えられる。

⁴ 日本語にも類似した諺「家に女房なきは火のなき炉の如し」といったものもある。

⁵ ‘The Online Etymology Dictionary’(<http://www.etymonline.com/index.php?search=bride&searchmode=none>)参照。

⁶ 黒木(1991), pp.237-284 参照。

⁷ 1926年に制定された新民法典により、女性の最低婚姻年齢は15歳に定められた(男性は17歳)。同法典では他に、一夫多妻制の廃止、離婚や遺産についての男女同権、小学校から大学までの男女共学等が定められた。

⁸ たとえば、イギリスの諺には Wives and wind are necessary evil.のように妻(女)を徹底的に攻撃しているものが多いという。奥津(2000), pp.141-142 参照。

⁹ かつて男性はロバをたいてい所有しており、ロバの世話のされ方を見れば、その人物が勤勉か、あるいは怠惰かということが分かるという意。

¹⁰ 最近ではテレビ番組の影響で、kılbıkに替わり layt (light) erkek (軽い男)が、kazakに替わり taş fırın erkeği (石のオープン [パン焼き釜] 男)がより使われるようになっている。

¹¹ 「一人前のトルコ人男性が持つべきもの」として At, Avrat, Silah (馬, 女 [妻], 武器)と古来より言われてきたが、現在は, Araba, Avrat, Cep telefonu (車, 女 [妻], 携帯電話)に変わっている。

参考文献

奥津文夫 (2000) 『日英諺の比較文化』大修館。

黒木三郎監修 (1991) 『世界の家族法』敬文堂。

尚学図書編 (1982) 『故事俗事ことわざ大辞典』小学館。

鈴木棠三編 (1959) 『続故事諺辞典』東京堂出版。

竹内和夫 (1989) 『トルコ語辞典 Türkçe-Japonca Sözlük』大学書林。

外山滋比古 (2007) 『諺の論理』ちくま書房。

Redhouse (2006) “Büyük ELSözlüğü İngilizce-Türkçe, Türkçe-İngilizce”, Redhouse.

Sevan Nişanyan (2007) “Sözlerin Soyağacı Çağdaş Türkçenin Etimolojik Sözlüğü”, ADAM.

Türk Dil Kurumu (2005) “Türkçe Sözlük”, Türk Dil Kurumu.

Yurtbaşı, Metin (1993) “A Dictionary of Turkish Proverbs”, Turkish Daily News.

----- (2007) “Turkish and English Proverbs”, Bahar Yayınları.

Güzel Sözler (<http://gurdal89.blogcu.com/>).

The online Etymology Dictionary (<http://www.etymonline.com/>).

Türk atasözleri-Vikisöz (http://tr.wikiquote.org/wiki/T%C3%BCrk_atas%C3%B6zleri).